

第97号		日時： 令和6年3月12日(火)				
浦安とみおか川柳会		出席者： 真田宣子、塩見和昭、高橋謙哉、谷口勝、長谷川智、三浦みちえ、光永ひかる、藤三休、山岸順、山口昇柳				
三月例会結果		講師： 佐藤青樹				
2		3	4	6	7	点数
年金を断る文句にしている 何を「断る」のでしょうか 年金を楯に飲み会逃げて来る いい加減返上したい地震国 一読明快の句 情報が多くて上手く泳げない 課題の「断る」の句でしようか 断りはメールでのみで切り抜ける お断りメール使って切り抜ける 訃報受け年賀止めても賀状来る 中七の「年賀止めても」が課題の「断る」なのでしようか 古希過ぎて未だ柳になれません 「風に柳」(逆らわないー断らない)なのでしようか		受験生親の干渉音をあげる 「音をあげる」のが課題の「断る」なのでしようか 口出しをするなど親へ受験生 我ママにわがまま言つて断られ 駄洒落みたいな句と誤解されないか 宿題をママへ頼んで叱られる	絶交の友から届く年賀状 一読明快の句	課長の座身入り減るので辞退する 「身入り」は「実入り」か。辞書にはないが 婚活のごめんなさいが上手くなり 一読明快、面白く出来ました	先祖の地意地でも避難せぬ古老 一読明快の句 プロポーズ断わるうちが花だった 一読明快、面白く出来ました	講師奨 講推 課題「断る」互選 講評＊佐藤青樹
順		智	みちえ	勝	和昭	
ひかる						
賢哉						
ひかる						
没		1				
瓢箪で今年の干支に平和こめ 瓢箪で何を祈る習慣があるのでしようか いつか来る入浴拒否のX日 一読難解の句 何事も大丈夫だと断つて 絵がよく見えないのでは 大丈夫助力断る二日酔い 母親へ生き結婚後と断る 七六四か七七四の句か？ 仲人へ母の介護が先と言 クラス会財布寂しく諦めた 一読明快の句		借金を使い出す友も切り捨てる 中七の「友も」は「友は」の方が良いのでは 上長に飲みに誘われお断り 庭(には)を削って野(の)に替える 蟒蛇の誘い尻理屈つけて逃げ スーパーでサンブル購入断られ そうかもしれないね	葛西橋新四年責任者都へ 作者以外は、この句を理解できない人もいるのでは 借金を言い出す友も切り捨てる 中七の「友も」は「友は」の方が良いのでは 上長に飲みに誘われお断り 庭(には)を削って野(の)に替える 蟒蛇の誘い尻理屈つけて逃げ スーパーでサンブル購入断られ そうかもしれないね	見合いして断る勇気なくて今 それで、今はお幸せなのですね お見令いを断らなくて子沢山	飲み放題元は取れぬと涙飲む 「断らない」句でしようか 岸田さん無駄な兵器買わないで 中六なのは。推敲を	オリンピック渋滞橋台沈下あり 中八なのは 岸田さん無駄な兵器買わないで 中六なのは。推敲を
		昇柳	昇柳	みちえ	和昭	昇柳

自由吟		谷口 勝選		二人選		藤 三休選			
軸	天地人	客	秀	軸	天地人	客	秀		
大谷の動静追って今日も暮れ にんじんへ全速力の駄馬走る おふくろの憧れ消せず下着ドロ 自己申告誰も許さぬ不明欄 どこまでもついてくるなよ災害よ 温めの湯尖った心丸くする 便箋の色にも思い滲ませる 株急騰バブルの悪夢また過る 勘違い母が惚けたと娘が慌て 傘寿越え余命数えて一桁に 復興へ思い思いの支援の輪 春よ来い空で寒暖せめぎ合い 終活の詰めに花咲くクラス会 五百羅漢懐かしい顔手を合わす 王将の歌の世界は過去の事 ロンドンの次パリになる長電話				和昭 順 賢哉 賢哉 智 ひかる ひかる 和昭 みちえ 賢哉 みちえ ひかる 和昭	せつかちの私スローの友が好き デジタル化へ付いて行きますかたつむり かくれんぼ早く見つけて尿漏れる 陽だまりで過ごす大事なロスタイム すいません記憶戻らずこのままで 筋肉痛スローテンポでやって来る 親心感謝尽くすと生き続け 古希の手習いゆっくり学ぶ捻子を巻く 生き甲斐を長老なりに唄い生き 盗塁の成否ビデオに依頼する 多数派を聞き分けている会議室 年金に合わせ時間が過ぎてゆく 喧騒を癒してくれる里言葉 雪女温暖化で溶けちゃった お願いだ時間よ止まれもう少し このままじゃやっぱ人類滅亡だ				みちえ 順 智 ひかる みちえ 昇柳 ひかる 勝 順 順 順 みちえ
遠藤沙都市 著作 「モザイクの記」より				二人選 山岸 順選					
遠藤先生は浦安の川柳会を発足させた恩人です				軸 天地人 客 秀					
東日本大震災（3・11） 原発に嵌まって高い手切れ金 原子炉の街に白けた風が吹く みちのくに波が奏でる鎮魂歌 3・11がぎぐげごーだちづでどー 罹災地に立てば地獄のそこにいる 原発に錆びた常識そぎ落す 原発を信じたボクもバカでした 震災地映像に無い場所歩く 救助犬の鼻品曲がる瓦礫臭 防災センター殉職の断末魔 ふるさとの海は他人の貌で風ぐ この海が生まれた故郷をこんな目に 罹災地を巡り先祖の血を想う 大津波あの馬鹿野郎ばかやろう				名投手緩急使い勝利得る せつかちの私スローの友が好き 盗塁の成否ビデオに依頼する ほっとする妻は重宝しています すいません記憶戻らずこのままで 野党とて追及にぶるカネの処理 天命を待ってゆっくり舟を漕ぐ 筋肉痛スローテンポでやって来る いらいらのセルフレジでの高齢者 一ミリをスロービデオがジャッジする 水差されりニア工事はかどらず 古希の手習いゆっくり学ぶ捻子を巻く 喧騒を癒してくれる里言葉 デジタル化へ付いて行きますかたつむり 多数派を聞き分けている会議室 年金に合わせ時間が過ぎてゆく				賢哉 みちえ 勝 昇柳 智 和昭 ひかる みちえ 和昭 和昭 和昭 ひかる みちえ	
例会のお知らせ	令和6年5月14日(火) 13:00～16:00 富岡公民館 「はかない」 互選 :3句 「破る」 二人選 :3句 自由吟 :3句			「犬吠」三月号 掲載会員句					
	御神輿へ気合いの入るヤング群れ(昇柳) 哲医師の井戸掘るも逝くアフガンへ(しだれ) 生きているだけで歴史になる長寿(和昭) ありがとうを勲章にするボランティア(順) 老いの鼻窓の隅にそっと咲く(勝) 補聴器に会話邪魔されペンを取る(みちえ)								

川柳いろいろ

没句

一人選（スロー）

大器晩成スローペースはマイペース
をこわと雪道犬と散歩する

自由吟

テレビではやせる薬の嘘、八
不祥事へすぐ委員会立ち上がる
にぎり飯あれば明日へ生きられる
涵徳亭全部食べたぜ完食亭
星の流れる時ほどの人の人生
届いたよ脅迫メール怒り無視
ひな祭り官女も高齢尿漏れす
一人っ子二人目止めて後悔が
高齢者夜道で転んで点燈す
気の入りの服着た母は車イス
播鉢のような里にも流れ星

川柳の理論と実践

新家完司

特殊な表現と誤用

○文語体を考える

川柳は話し言葉を基準とした「口語体」によって書き表すことを基準としています。しかし稀に「文語体」で表現した句もあります。文語体とは、平安時代の言葉を元に形成された文体で、もっぱら「書き言葉」として戦後の公文書などに使用されていましたが、現在では俳句や短歌そして少し改まった文章などに見受けられます。

・ 孤高とはかくなるものか木守柿
・ まほろばの歴史を深く学ぼうか
・ みまかりて後の誹謗は耐えがたし
右の「かくなるものか」「学ぼうか」「みまかりて」「耐えがたし」という表現が文語体です。
これを口語体にしますと

・ 孤高とはこんなものかな木守柿
・ まほろばの歴史を深く学ぼうか
・ みまかつて後の誹謗は耐えがたい
となります。それぞれ親しみやすくなりましたが、元の句の格調や凛々しさは薄れています。
このように文語体は堅苦しくは感じますが、その特長を生かして内容の重たい句に使用しますと独特の風格を持たせることができます。
ただ、文語体は口語体とは語彙も文法も違ってきますから、慣れてない人にとっては扱いにくいものです。無理にチャレンジする必要はありません。
あくまでも口語体による表現を目指し「この内容なら文語体のほうが効果的か？」と思ったときに試してみる程度でいいでしょう。

鑑賞 犬吠 令和四年四月号より

フラワーライン

・ 千紫万紅より

統計の嘘はウソではないらしい
友達も元気でいるか気にかかる
この歳で妙にせわしくなる師走
閑東平野ひたすら走る自粛明け
テレビでもするラジオ体操
足腰を鍛えておこう墓参り
育児が好きで五人のママになる
千両も万両も有る狭い庭
ユーミン聴いてあの日と同じレモンティー
目覚ましさんごめんね先に起きてます

・ 黒潮集より

古い三昧ゆっくりと時ころがして
少子化へ戦時下並みの子は宝
患者さまと言われてみても弱者です
先人は祖にして野だが卑ではない
伴走の妻の歩幅が気にかかる

金波銀波（各地句会報）より

胃薬は夫の前で飲むが良い
夫婦仲程よい惚けが和を保つ
あの角度までならセーフ妻の眉
人の目を逃れバイパス走る恋
真夜中の蛇口ポトリと本音吐く
旅気分アンテナショップはしごする
片言の挨拶稼ぐお年玉
夫だけ来世も一緒信じてる
給付金ママの口座で一休み
いじめにも勝った忍耐親ゆずり
ゆっくりと生きたい明日も今日のまま
差し入れはあなたの笑顔それでいい
寂聴の心つかみに行く余生
八十路でも人生ノートまだ余白

林 はな
福田 研治
大竹 洋
岡部 正則
城野 けんじ
下地 正子
園部 かずお
高橋 和男
小林 修
北島 澤
梶田 きみ子
門間 香津子
横山 よし子
羽村 田廣
白土 佳奈
清水 ごう
鈴木 ふみ
斎藤 由紀子
鈴木 諄三

浦安とみおか川柳会

[illegible]